ゲートボールの組織化の経緯

吉村　麻奈美

キーワード：ゲートボール、組織、乱立、統一

1．研究の動機

かつて高齢者といえば、家でのんびりと暮らし、運動とは程遠いイメージであったが、現在は活発に活動し、実際に体力や運動能力が向上しているという結果が現れている。そこで、なぜ、どのようにして高齢者スポーツが普及していったか興味を持った。その中で、ゲートボールは高齢者スポーツとして 1990 年頃には競技人口が約 600 万人にのぼるなど、一世を風靡し、その普及にはゲートボール協会などの組織が大きく関わっていたものの、複数の組織やルールが乱立していたことに強い関心を抱いた。

2．研究の動機と意義

本研究では、ゲートボール協会などの組織がなぜ乱立し、どのように統合していったのかを明らかにすることを目的とする。また、現在高齢化社会であるとともに、いずれは誰しもが高齢者になる中で、高齢者とスポーツ並びに組織とのより良い関係を見つける一助となることを意義とする。

3．先行研究の検討

ゲートボールの普及と衰退、それに着目した先行研究はいくつかあったが、協会や組織に関する研究は見られなかった。

岩本(1984)はゲートボールの普及現象を「社会システムの属性」や「イノベーション属性」など様々な視点から明らかにしており、矢崎(1992)はゲートボール活動人口の減少を個人的、社会的視点から研究し明らかにしている。

上記２点の論文では、ゲートボール組織について触れられているが、組織化の背景や、詳細については明らかにされていなかった。

4．研究の方法

本研究では、日本ゲートボール連合の機関誌や議事録、新聞記事といった史料を用いて、以下の時期区分に従ってゲートボールの組織化の経緯を明らかにしていく。

1）ゲートボールの誕生と組織の乱立(1947 年～1983 年)

2）組織統合に向けて(1980 年～1984 年)

3）組織統合　日本ゲートボール連合発足(1984 年～)

1947 年にゲートボールが誕生してから全国で組織が乱立する１)の時期と、1980 年に日本レクリエーション協会によりルール統一の呼びかけがあり、それぞれの組織の代表者による会議が開かれ始める２)の時期で大きな変化があると考えた。また日本ゲートボール連合発足により組織が１つにまとめられた 1984 年～の３)の時期にも大きな変化があると考えこのように３つの時期に区分した。

5．本論

5．1　ゲートボールの誕生と組織の乱立

1947 年に北海道で鈴木によって誕生したものの、鈴木の普及活動では全国的に普及されず、九州をはじめ様々な地域や組織がそれぞれのルール、やり方で普及活動を行ったため複数のルールや組織が乱立してしまった。ゲートボールは手軽に体力的にも負担が少なく行うことができるため、「国民皆スポーツ」を機に「高齢者もスポーツを」という世の中の考え方とも相まって高く評価され、様々な方面から高齢者のスポーツとして普及されるに至った。しかし鈴木のルールがしっかり認識されないまま普及されてしまったため組織、ルール共に乱立してしまったといえる。また、普及方法に関しては競技

者である高齢者自らが中心となって普及させていくよりも組織の活動によってますます普及されていったと感じる。

5．2　ルール統一に向けて

ルールが複数存在するため混乱が生じ、ルールを統一しようとする動きが起こった。1980年から日本レクリエーション協会を仲介役として、主要3団体である日ゲ・全協連・協議会によりルール統一に向けた振興会議が定期的に開かれた。1981年8月18日に一度統一ルール成立の記者会見が行われるが、その後1982年8月24日に日ゲが振興会議を脱退し、ゲートボール界が日ゲ側と振興会議側に二分され2つの統一ルールができるなど、更なる混乱を起こして統一ルール作りは失敗に終わる。また、ゲートボール創始者の鈴木が全協連相手に著作権の訴訟を起こすがこれも失敗に終わる。統一ルール作りが失敗に終わった大きな原因としては、各組織ともに対抗意識が強く、自分達のメンツや利益に固執したからだと考える。

5．3　統一組織に向けて

混乱するゲートボール界に全国都道府県体育・保健・給食主管課長協議会の行政組織から1983年9月に「ゲートボール団体調整のお願い」という要望書が日本体育協会に出された。これにより、ルール問題よりも全国の組織をまとめることを先決とし、統一組織結成のためゲートボール関係者、体育・スポーツの学識者などが「日本ゲートボール連合」結成に向けて動き出した。協議は順調に進み、国民の健康の保持増進、特に高齢者の活動普及振興に理解があり、ゲートボールの新しい統一組織結成に熱意がある方などを会長の条件として合意された。1984年6月15日に条件に適した人物として(財)日本船舶振興会理事長の笹川良一に日本ゲートボール連合の会長就任を依頼し承諾を得た。同時に笹川が会長を務めるB&G財団より財団法人設立に必要な基金5,000万円の搬出が了解された。笹川はゲートボールに特に、健康増進、高齢者の生き甲斐、それによる高齢者の医療費の減少に期待していた。そして9月28日付けで文部大臣に対し、正式に財団法人日本ゲートボール連合の設立許可申請が提出され、異例の3ヶ月の早さの12月21日付けで文部省から(財)日本ゲートボール連合の設立が許可された。統一組織に向けて動き出してから迅速に結成まで進んだのは、第一にゲートボール組織の関係者だけでなく体育・スポーツの学識者たちが多数参加し広い知見から、統一組織結成後の国体参加やレクリエーションスポーツとしての発展などを望んだこと、第二に資金援助があったことを主な要因として複合的に合わさった結果だと考える。

日本ゲートボール連合結成後、1985年3月20日に統一ルールとして競技規則書が作成され、11月には全国大会も開催されている。また、日本ゲートボール連合は都道府県ごとの加盟であり、1985年2月26日の大分県の初加盟に始まり順に加盟が進み、1986年4月16日に兵庫県加盟により統一組織の組織化が達成し、それと同時にゲートボール自体も全国的に統括されるスポーツになったといえるだろう。

6．結論

このように組織の乱立時は、個々の組織の対立により、統一ルールの作成もままならず、ゲートボール界は混乱していた。しかし、組織統一の達成により統一ルールの作成、全国大会の開催など、愛好者にとってゲートボール環境は整えられ、組織統一が重要であったことは明らかである。また、ゲートボールは体力的に負担が少なく、誰でも、どこでも手軽にできるスポーツとして高齢者に普及した。加えて笹川が健康増進、高齢者の生き甲斐として期待していたように、高齢者にとってスポーツは手軽に行うことができ、健康増進に繋がるものであることが求められると考える。

(指導教員　秋元忍)